令和８年度 救助技術の高度化等検討会（第３回）

「CBRNE 災害等に対応する装備資機材への新技術の活用等」

議事概要

１　日時：令和 8 年 8 月 3 日（月）14:15～16:00

２　場所：東京都中央区八重洲１－８－１６

TKP 東京駅カンファレンスセンター１A（WEB 会議とのハイブリッド開催）

３　出席者（敬称略）

【委員】

〈有識者〉吉田悦教（座長）、小井土雄一、濵田昌彦、宮口一

〈消防機関〉倉澤和外、重田雅文、中嶋仁美

【オブザーバー】

〈関係機関〉池田太一、櫻木敬士、曽根拓磨、草間遼大、作山洋貴

〈消防庁〉鈴木知基、鶴見純、土志田正二、吉田正嗣

４　議事内容

（１）あいさつ（消防庁国民保護・防災部参事官）

（２）議題

ア　化学剤現場検知活動の適正化と高度化について

宮口委員から説明、質疑

イ　分科会の結果について

資料２を小井土委員にて説明

ウ　中間とりまとめ（案）について

資料３を事務局にて説明、質疑

【意見】

（委員）
指揮支援者における通信確保は重要である。一方、保有する特殊災害対応車について、諸外国（シンガポール等）では CBRNE だけでなく広く HAZMAT 事案の指揮統制に活用している例もあるため、運用の方向性を検討してほしい。
掲載写真（FALCON 4G Active、ドローン等）の仕様や運用イメージを確認した。ウェアラブル端末に関連し、建物内や地下街での測位システムについても検討を求める。
除染・救急について、従来の記述との対比や意図が伝わりにくいため整理が必要である。
特定病院への一括搬送（現場クリアランス）とトリアージタグ活用の記述について、分科会での取りまとめと矛盾が生じないよう調整してほしい。「被害を軽減する技術」の具体的なイメージについても明確化を求める。

（事務局）
序盤の指摘については再検討する。トリアージを行わずに迅速搬送する場合と、少人数でトリアージを行う場合の双方の運用があることを踏まえ、記述を分かりやすく修正する。

（委員）
5 ページのアイソレーターについて、不足が懸念されるため全国の配備数を明記できないか。また、6 ページに記載のある今後配備を進める資機材には、ドローンや各種ロボット等が含まれる認識でよいか。

（事務局）
アイソレーターの配備数は担当部署（救急企画室）へ確認する。配備を進める資機材にドローンやロボット等が含まれるという認識で相違ない。

（委員）
全体を通して施策の推進主体や提言先が分かりにくいため明確化してほしい。自治体への働きかけなのか、国への制度要望なのかを整理することで理解が深まると考える。

（事務局）
施策の推進主体の目線を見直す。部隊運用は市町村が主体となるが、最新資機材の配備等は消防庁が主導して各消防本部に配置していくイメージで整理する。

（座長）
出された意見および後日提出される意見を反映した上で修正案を作成する。本文の修文は座長に一任いただき、本案をベースに中間取りまとめとする。

（３）その他

ア　次回の予定等

イ　あいさつ（消防庁国民保護・防災部参事官）